

長野県産シダ植物の新産地 (10)

上野 勝典*・上野 由貴枝*

New localities of some pteridophytes in Nagano Prefecture (10)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

スギラン (ヒカゲノカズラ科)

Lycopodium cryptomerinum(=*Huperizia cryptomerina*)

写真 1

・飯田市南信濃 1000 m 2015 年 10 月 10 日
NAC176350

比較的風通しが良く明るい岩場の側面に、大きなスギランが数株離れて生育していた。周辺の岩場を探すと 10 株程度があちこちに見られ、どれも生育状態が良好で大きな個体が多い。環境としては風通しは良く、空中湿度が高いようで岩場はよく苔むしており、コケシノブの仲間が多くみられた。小さいものはスギの子株によく似ている。長野県では南部に分布し、近くでは根羽村や旧上村で見たことがある。暖地の植物とされるが、北海道まで分布している。

チチブホラゴケ (コケシノブ科)

Crepidomanes schmidtianum

・飯田市南信濃 1000 m 2015 年 10 月 10 日
NAC176368

大きな岩の側面に群生しているのを見つけた。チチブホラゴケはやや濃い緑色をして小型であることから、ハイホラゴケやヒメハイホラゴケとは比較的容易に区別できる。胞子嚢群の包膜がやや反り返る。県内ではこれまで南アルプスを中心に見られていたが、木曽谷周辺でも数か所で見つかっており(上野・上野 2011、2013)、比較的標高の高いところで見ることが多いように思う。近くでは、県境を越えた静岡県側の水窪でも見つけた。

ミカワコケシノブ (コケシノブ科)

Hymenophyllum mikavanum 写真 2、3

・飯田市南信濃 1000 m 2015 年 10 月 10 日

大きな岩場にホソバコケシノブによく似ているが、胞子嚢群の形や付き方の異なるものが群落を

作っていた。よく調べてみると、周辺の岩場に類似のものが数か所で群落を作っているのに気が付いた。2 か所で標本を採り、国立科学博物館の海老原淳博士に見ていただいたところ、2 か所のうち一方は、葉が小型で葉身の形などからホソバコケシノブの小型品とみられるが、ミカワコケシノブかヒメコケシノブの影響が見られる、他方はミカワコケシノブの可能性が高い、との返事をいただいた。また、すぐ近くの静岡県側の水窪においてミカワコケシノブを見つけており(海老原博士により同定いただいた)、これらの状況からミカワコケシノブであろうと思われるので、ここではミカワコケシノブとして紹介する。環境はホソバコケシノブよりも沢の水の流れの近くで、湿度がより高いところに見られた。形態はホソバコケシノブに非常によく似ており、葉身はホソバコケシノブがやや三角形であるのに対し楕円形に近く、下部の羽片が大きくなる。著しい特徴は胞子嚢群が先端にまとまって付き、包膜が二等辺三角形で先が鋸歯状に裂けたようになっている点である。ただ、ホソバコケシノブと比較すると胞子嚢群の付く割合が非常に小さく、また葉での同定は困難であることから、同定できない株が多いように思った。日本固有の種で、これまで愛知県と岐阜県でのみ記録されていた(加藤・海老原 2011、愛知県環境調査センター 2009)。したがって、今回、静岡県と長野県において、初の産地となった。

ミヤマシシガシラ (シシガシラ科)

Blechnum castaneum

・松本市乗鞍高原三本滝 1800 m 2015 年 8 月 23 日 NAC176344

観察会において、乗鞍高原周辺を観察して歩いたとき、シシガシラに混じって一株だけミヤマシシガシラが生育しているのに気が付いた。周囲をよく探してみたが、他の株を見つけることができなかった。現地では、いっしょに観察をされていた芹沢俊介博士、大塚孝一博士にも確認いただいた。長野県では大町以北に見られるので(清水 1997)、

* 上野勝典・上野由貴枝

〒399-0011 長野県松本市寿北 2-2-38

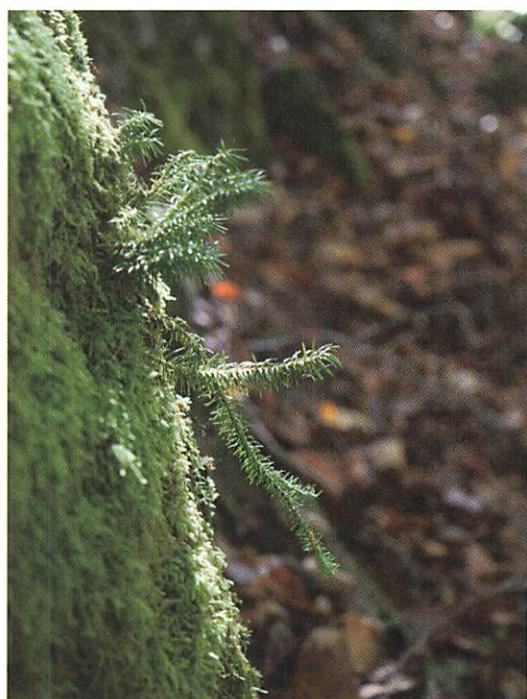
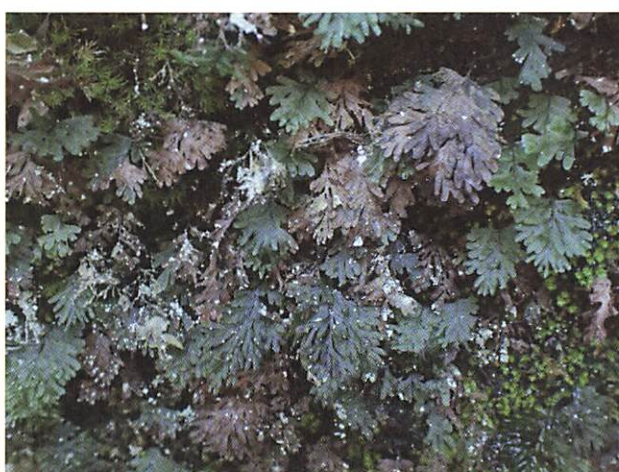
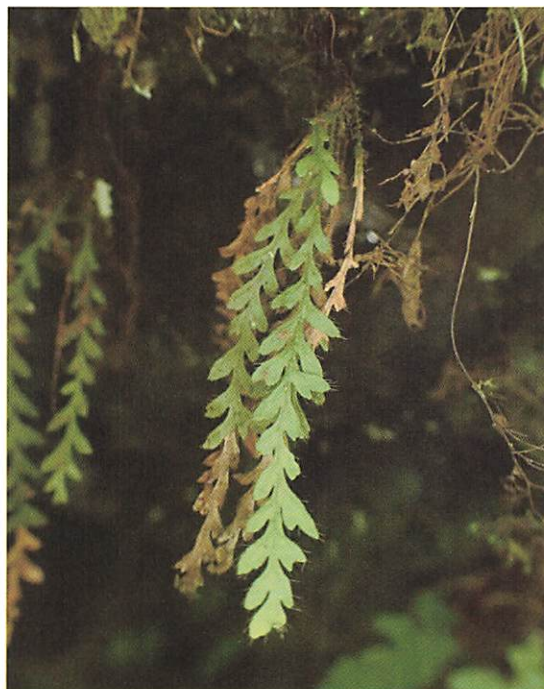


写真1 スギラン 飯田市 2015年10月10日

写真2 ミカワコケシノブの全体
飯田市 2015年10月10日写真3 ミカワコケシノブの胞子葉群
飯田市 2015年10月10日写真4 キレハオオクボシダ
王滝村 2015年9月23日

乗鞍高原は新産地となる。本種は胞子葉が高く伸びる性質があるが、この株では胞子葉がついていなかった。ミヤマシシガシラは葉の色がやや濃い緑色で、葉の裏側が紫色になり、また羽片がやや丸く太い感じがする。葉脈に大きな違いがあり、シシガシラは羽軸に浅い角度で側脈が長く伸びる一方、ミヤマシシガシラでは羽軸に対し大きな角度で側脈が縁に達するので脈が短い。また、基部のリン片の形状にも違いが見られ、シシガシラは線形だがミヤマシシガシラは幅が広い。ミヤマシシガシラは日本海側の雪の多い地域に分布する日本固有の植物である(加藤・海老原 2011)。

オオキヨズミシダ (オシダ科)

Polystichum tsus-simense var. *mayebarae*

・南木曽町大妻籠 500 m 2015年10月24日
NAC176347

溪流脇を歩いていたとき、小さい株が一株だけ見られた。周囲を探したが他に見つけることができなかった。暖地性のシダで県南部と北部でときおり見られ、ヒメカナワラビに似ており、より大型である。木曽谷では塩尻市の1か所以外では見つかっていない(上野・上野 2004)。

タカオシケチシダ (ウラボシ科)

Cornopteris decurrenti-alata var. *pilosella*

表1 オオクボシダとキレハオオクボシダの形態の比較

	オオクボシダ	キレハオオクボシダ
着生の状態	葉がやや等方的に伸びる	下垂する
羽片の形	左右対称で規則正しい 全縁	左右不揃いで大きさもまちまち 鋸歯がある
葉の質	やや硬い	柔らかく草質
葉の開出毛	褐色	白色
葉身の長さ	5cm 前後	10cm 程度

・根羽村鉢盛山 600 m 2015 年 7 月 26 日
NAC176353

溪流を歩いていたとき、シケチシダが見られ、軸および葉の裏に多数の毛があることに気が付いた。シケチシダの有毛品はタカオシケチシダとして、シケチシダの変種とされる。今回見た個体は毛が非常に多く、上から見ても軸に多くの毛が密生しているのが容易にわかった。触ってみるとゴワゴワとした毛の感触がはっきりと感じられた。シケチシダは県南部を中心に比較的普通に見られるが、タカオシケチシダを見ることはほとんどなく、以前南木曾町の田立、大妻籠で見かけたことがある。

エゾデンダ (ウラボシ科)

Polypodium virginianum

・王滝村幕島 900 m 2015 年 5 月 17 日
NAC176367

王滝川の川沿いの遊歩道脇の岩に着生しているのを見つけた。エゾデンダはオシャグジデンダによく似ているが、より質が厚く、胞子嚢群は縁寄りにつき、また裏面の中軸は無毛である。長野県では中部を中心に分布している。最近、伊那谷の辰野町にて見つけたが(上野・上野 2015)、今回の場所はそれよりもさらに南に位置しており、長野県の分布における南限と考えられる。

キレハオオクボシダ (ヒメウラボシ科)

Ctenopteris sakaguchiana 写真 4

・王滝村 2015 年 9 月 23 日 NAC176349

苔むした岩の多いところを歩いていたとき、岩の裏側に垂れさがっているシダを見つけた。数株が連なって垂れさがっており、オオクボシダに似ていたが垂れさがっている姿に違いがあり、また 10cm 近い長さもあることなどから別のもので、キレハオオクボシダであろうことがすぐにわかった。観察してみると、オオクボシダと比較して表 1 のような違

いがある。図鑑によると大きさはオオクボシダでも 15cm 近くになることがあるとのことだが、長野県内でそのような大型になるものを目にすることはない。

長野県ではキレハオオクボシダは 1958 年に奥原弘人氏によって王滝村で初めて発見された(清水 1997、奥原 1971、1992)。奥原(1971)には 1959 年に発見したとあるが、標本の記録や奥原(1992)には 1958 年とされるので、1958 年が正しいと思われる。その後、別の場所でも標本が採られたが、1960 年を最後に見られることがなかったために長野県版レッドデータブック維管束植物編で絶滅とされた(長野県 2002)。当時は牧尾ダムが 1957 年に着工され、奥原氏は工事の影響を気にしてこの地域の植物の調査を行っていたのではないかと想像した。キレハオオクボシダは秩父地方、紀伊半島、九州等の数か所で生育しているが個体数は極めて少なく、また日本固有の植物であることから、大変貴重な植物である(加藤・海老原 2011)。以前、奈良県に本種が生育しているという場所を訪ねたことがあったが見ることができず、今回が初見であった。

謝辞

シダ植物の同定ならびに本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただきました長野県環境保全研究所 & ハーバリウム(NAC)の大塚孝一博士に心より感謝の意を表します。また、ミカワコケシノブの同定をしていただき、貴重な情報をいただきました国立科学博物館の海老原淳博士に心より感謝の意を表します。

引用文献

愛知県環境調査センター編集 (2009) 「愛知県の

- 絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009 ―植物編―. 愛知県環境部自然環境課
- 岩槻邦男編 (1995) 「日本の野生植物 シダ」.
平凡社
- 奥原弘人 (1971) 「木曾谷の植物」.
木曾教育会
- 奥原弘人 (1992) 「信州の珍しい植物 出会いを求めて 50 年」.
信濃毎日新聞社
- 加藤雅啓・海老原淳編集 (2011) 日本の固有植物.
東海大学出版会.
- 清水建美監修 (1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社.
- 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック 維管束植物編. 長野県自然公園協会.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2004) 長野県産シダ植物の新産地. 長野県植物研究会誌 37: 45-48.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2011) 長野県産シダ植物の新産地 (6). 長野県植物研究会誌 44: 37-40.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2013) 長野県産シダ植物の新産地 (7). 長野県植物研究会誌 46: 119-123.
- 上野勝典・上野由貴枝 (2015) 長野県産シダ植物の新産地 (9). 長野県植物研究会誌 48: 79-80.